



希望の鐘 *The Bell of Hope*



The Y's Men's Club of Kawagoe

〒350-0046 川越市菅原町 7-16

tel:049-226-2491 fax:049-226-2304

c/o Kawagoe YMCA, 7-16 Sugawara-cho, Kawagoe, Saitama 350-0046 Japan

川越ワイズメンズクラブ会報

No. 26-06

12月号

発行 2023年12月21日

Chartered 1998

会長 山本 剛史郎

クラブ会長主題「温故知人」スローガン「明日に向かって新しい出会いを！」

副会長 松川 厚子

国際会長 Ulrik Lauridsen 氏(デンマーク)

会計 吉田 公代

主題“Let Your Light Shine“

書記 吉野 勝三郎

(輝かそう、あなたの光を)

アジア太平洋地域会長 利根川 恵子(川越)

主題“Be the light for change”

(変革のために光となろう)

東日本区理事 山田 公平(宇都宮)

主題「未来のために今、学びと気づきを！ 未来のために、自信を育み、真の喜びに出会おう！」

関東東部部長 長尾 昌男(千葉ウエスト)

主題「YMCAとY's協働で、目指そう地域に繋がる奉仕を！」

12月の聖句

今月の聖句

平和を造る人々は、幸いである

その人たちは神の子と呼ばれる。

マタイによる福音書 5章9節

Blessed are the peacemakers, for they shall be called
sons of God.

Matthew 5:9

そうだと思うが、特に現代における戦争は軍人同士の戦いではなく、一般の民衆を巻き込んだ戦いになっており、病人や子ども、赤ちゃんまでもが犠牲になっている。本当に痛ましいことだと思う。

イエスは「平和を造る人々」は幸いだと述べ、その人たちは「神の子」と呼ばれると言っている。古代社会、1世紀のパレスチナはローマ帝国の支配下にあったので、「平和を造る者」、「神の子」というのはローマ皇帝の称号でもあった。しかし、そのような政治的支配者ではなく、平和を造るために努力をしている一般の人々こそが「平和を造る人々」であり、「神の子」(複数)なのだとイエスは宣言しているのだろう。私達も微力ではあるが、決して無力ではない、平和を造る人々になりたいと思う。

12月統計

出席者 7名 出席率 78%

巻頭言

川越ワイズメンズクラブ会長 山本剛史郎

「平和を造る人々」

今年2023年ももうすぐ終わり、2024年となる。この一年を振り返って、やはり衝撃的だったのはイスラエルとパレスチナとの間の戦争である。昨年2022年に始まったロシアとウクライナとの間の戦争も続いており、終わりが見えてこない。どの時代の戦争でも

生川 美樹

2023年12月9日(土)午後2時~4時、川越YMCAにて、川越ワイズメンズクラブクリスマス会を、開催しました。参加者は、クローバークラスから、中学生3名、小学生1名、Maxリーダー、京子リーダー、吉野さんご夫妻、利根川(恵子)さん、山本さん、山崎さん、吉田さん、生川が参加しました。

クリスマス会は、参加者全員の自己紹介から始まり

ました。それぞれが、“今はまっているもの”を紹介。その中で、中学生のSさんがはまっている、ガチャでゲットしたお菓子をモチーフにした指輪に、みんなから、感嘆の声があがりました。この他、短歌、絵手紙、断捨離、ディズニーランド等々幅広い、はまっているものが紹介されました。

そして、みんながお待ちかねのビンゴゲームを行いました。今回も一人一人がプレゼントを用意。なかなか、リーチにならず、リーチになってもビンゴにならず、みんなやきもきしていましたが、最後は無事みんながプレゼントを手に入れました。

最後に、山本会長が、美しい切絵が挿絵になっている、“クリスマスのもがたり”という絵本を、紹介してくれました。とても綺麗な絵本で、優しい言葉で、イエスの誕生について、書かれている絵本でした。参加者はみんな笑顔で、和やかな雰囲気、クリスマス会を過ごすことが出来ました。今回のクリスマス会も、絆を深める良い機会になりました。来年もまた、ワイズメンとYMCAの子供たちと合同イベントを企画したいと思います。

埼玉 YMCA フェスティバル

今年11月23日(休日・木)に埼玉YMCA所沢センターと子育て子育てセンターで開催されました。コロナ禍のため3年振りの開催となりましたが、今年から開設された「子育て子育てセンター」の駐車場を解放して、駅前通りから直接入場できました。又、初めてのこととして、キッチンカーを受け入れることができて、職員が来場者に対応する時間が取れました。手焼きのフランクフルトソーセージのコーナーは、行列が切れることはありませんでした。

川越クラブからは、山本会長ほか、山崎ワイズ、利根川(太郎)ワイズ、吉野ワイズ、吉野メネットが参加して、“森のコーヒー”と“川越芋菓子”の販売、“古書再読”の書籍展示と配布を行いました。

事務局の情報によると、総来場者は400名ほどだったそうです。



3ワイズから埼玉YMCAリーダー育成支援金を寄付



貴重な、山岡荘八著「徳川家康」全18巻



「古書再読」展示



屋上でのビンゴ大会(外れ券なし)

国際議員・アジア太平洋地域会長 利根川恵子

「イエス・キリストの教えに基づき・・・」

ワイズメンズクラブ国際協会は、「イエス・キリストの教えに基づき、相互理解と敬愛の思いに結ばれて、あらゆる信仰の人々が共に働く世界的友好団体」と国際憲法の第2条第1項に記されています。これは、ワイズメンであるということが、クリスチャンであるか否かは問わずに、イエス・キリストが教えられたことを受け入れ、実際の行動に移すように心がけることを意味します。つまり、われわれのクラブの活動を考えるときも、常にイエス・キリストの教えがガイドラインとしてあるということです。

国際とアジア太平洋地域には、Christian Emphasis(キリスト教理解と訳しています。)事業主任が任命されていて、折に触れ、メッセージの発信やキリスト教の啓発活動をしています。国際CE主任は、デンマークのカール・ヘルツ・イェンセンさん、アジア太平洋地域は石巻広域クラブの川上尚哉さんです。

クリスマスに向けて、お二人からメッセージが届きました。特にカールさんからのメッセージは、日ごとにクイズが付いているアドベント・カレンダーです。まだ何日かありますので、お試しください。

みなさま、どうぞよいクリスマスと新年をお迎えください。



December 21.

John 1, 26-27:

John answered, “I baptize with ?????, but there is one here with you that you don’t know about. ²⁷ He is the One who comes after me. I am not good enough to untie the strings of his sandals.”

December 22.

Isaiah 12, 4-5:

At that time you will say,

“?????? the LORD and worship him.

Tell everyone what he has done and how great he is.

⁵ Sing ????? to the LORD, because he has done great things.

Let all the world know what he has done.

December 23.

2 Corinthians 1, 19-22:

The Son of God, Jesus Christ, that Silas and Timothy and I preached to you, was not ??? and no. In Christ it has always been ???. ²⁰ The ??? to all of God’s promises is in Christ, and through Christ we say ??? to the glory of God. ²¹ Remember, God is the One who makes you and us strong in Christ. God made us his chosen people. ²² He put his mark on us to show that we are his, and he put his Spirit in our hearts to be a guarantee for all he has promised.

December 24.

John 3, 27-30:

John answered, “A man can get only what God gives him. ²⁸ You yourselves heard me say, ‘I am not the Christ, but I am the one sent to ?????? the way for him.’ ²⁹ The bride belongs only to the bridegroom. But the friend who helps the bridegroom stands by and listens to him. He is thrilled that he gets to hear the bridegroom’s voice. In the same way, I am really happy. ³⁰ He must become greater, and I must become less important.

Christmas Day

Luke 2, 10-12:

“Do not be afraid. I am bringing you good news that will be a great joy to all the people. ¹¹ Today your Savior was ??? in the town of David. He is Christ, the Lord. ¹² This is how you will know him: You will find a baby wrapped in pieces of cloth and lying in a feeding box.”

(川上尚哉さんのメッセージ)

2023年10月7日は、世界史に残る日になりそうだ。パレスチナのガザ地区からハマスによる大規模な軍事作戦が行われ、多くの死者と誘拐者が出た。そしてその報復として、イスラエルが憎悪と怒りの表現としてガザ市街にひどい爆撃を行った。イスラエルからの攻撃は今、拡大しつつある。

このような世界史的な出来事に直面するとき、私たちは慎重にならなければならない。私たちの言葉や態度が収集され、“戦争の燃料”として利用される危険性があるからだ。この場合の“火に油を注ぐ”ことは、死傷者の増加に直結する。しかし、何も言わないこと、何も言わないことは、状況を悪化させるだけである。実際、私たち一人ひとりがこの事件に巻き込まれ、追

い詰められている--この現状を事実として認識することが何よりも大切だと思う。

そのうえで、いま起きていることを見つめ、語り合い、自分たちにできることを探していかなければならない。非常に重要なのは、この戦いが "ロシア・ウクライナ戦争"につながっているということだ。現在進行中のロシアとウクライナの戦争は、ロシアによって "ナチズムを一掃するための特別軍事作戦"と認識されている。そして、イスラエルが世界の良心から「言語道断」と弾劾されるような恐ろしい攻撃を続ける背景には、ナチズムの記憶がある。私たちは今、20世紀を終わらせようとする大事件の真ただ中にいるのだと思う。

そのうえで、この歴史的出来事が "乗っ取られた"ものであることを肝に銘じておきたい。世界中に "ユダヤ人"がいる。その人たちは今、怯えている。イスラエル共和国が行っている軍事作戦が極めて残酷だからだ。そして他方で、イスラエル共和国の国民の約20%はアラブ人 (=パレスチナ人) である。その人たちは、巨大な憎しみの渦の中で息を潜めて日々を過ごしているに違いない。

歴史を決定づける出来事は、常に "誰か" の政治的決断に基づいて展開される。そして、その "誰か" に乗っ取られたかのように、国や地域の人々は混乱に陥っている。従軍慰安婦の問題にしても、「ヒロシマ・ナガサキ」の問題にしても、私たちの歴史の中では常に同じであったことを痛感させられる。

その中で、YMCA の存在は貴重である。"乗っ取られている人たち" と直接つながるチャンネルになるからだ。ロシア、ウクライナ、パレスチナ、イスラエル、そして "イスラエルとパレスチナの間" に YMCA はある。現在、私たちは乗っ取られているのだから、当然、大変な不自由を強いられている。しかし、チャンネルは残っている。私たちはこれを利用することができる。平和への第一歩はそこからしか始まらないと思う。自由がないのだから、ごく小さな、地味な一歩しか踏み出せない。しかし、それは確かな一歩だ。イメージの中で飛び跳ねるのは次元の違う、本当の一歩なのだ。

YMCA報告

【北関東スキーリーダートレーニング】

この度は、リーダー育成へのご支援、そして温かいお言葉をありがとうございました。

先週、北関東スキーリーダートレーニングが行われましたので、ご報告いたします。群馬県の丸沼高原スキー場に、北関東の YMCA から 45 名程度が以下の目的で集いました。

- ①キャンプの実体験をすること
- ②スキーインストラクターとしての技術向上をすること

そして、埼玉 YMCA からはスタッフ 2 名、リーダー 5 名、インスト 1 名が参加しました。



↑左上からおすしリーダー・レックスリーダー・ゆうちゃんリーダー

左下からみゅーリーダー・なつリーダー *埼玉 YMCA ボランティアリーダー

以下、参加した岩井（レックスリーダー）からの報告です。

「この度は、ご支援いただきありがとうございます。はじめてのことだらけでわくわくドキドキだったのですが、自分の好きなスキーで、新たな学びや他県のYMCAのリーダー、ディレクター、インストラクターの方々と出会うことができ、本当に楽しく良い経験となりました。子どもたちに楽しさを感じてもらえるようにリーダートレーニングで学んだことをキャンプで活かしていきます。」

今回ワイズメンズクラブの皆さまからお預かりした支援金はスキー教本の購入費として使用いたしました。残りの支援金は、埼玉 YMCA での単独のリーダートレーニング費用に用いる予定です。

今年度は、通常と特別支援のスキーや雪遊びキャンプを併せて5本実施します。参加した子どもたちにとって「みつかる。つながる。よくなっていく。」場になるよう努めます。そして、ワイズメンズクラブの皆さんと今後も手を取り進んでいきたいと考えていますので、どうぞよろしく願いいたします。また、至らないことも多々あると思いますので、その際にはお伝えいただけますと幸いです。

最後に、今回関わった全ての皆さま（ワイズメンズクラブ・ボランティアリーダー・関係企業・卒業生・スタッフ）に感謝いたします。皆さまにお会いできることを楽しみにしております。

この度は、ありがとうございます。（木下遥七）

【みんなのんびりキャンプ】

11/18(土)~11/19(日)、小川げんきプラザにて特別支援教育の宿泊キャンプを行いました。

今回は、

- ①秋の森で友だちとのんびりゆったり楽しもう
- ②できることを頑張ろう・みんなで一緒にパワーアップをねらいにプログラムを計画しました。

参加者はメンバー15名、スタッフ・リーダー7名で

わいわいと賑わいのあるキャンプとなりました。

また賑わいながらもゆったりと子どもたちのペースにあったプログラムを展開することができました。キャンプは集団生活であるため、人に合わせなければならぬ場面もありますが、子どものペースに合わせる・待つことも大切だと考えています。フィールドアクティビティのスタンプラリーでは、地図を見ながらグループのメンバーとどのルートでポイントを目指すかを話し合いながら自然の中を歩き回りました。

キャンプ生活は、ひとりではできないみんなで協力しなければならない場面があります。食前準備・就寝準備・荷物の運搬などを役割分担し、みんなで準備をする中で、自然と「ありがとう」を伝える場面がたくさん見られました。普段、当たり前だと思っていることへの感謝の気持ちが芽生えてくれたら嬉しく思います。【長谷川洋輔】



(編集後記)

2023年最後のブリテンをお届けします。ワイズ歴では半年が過ぎたこととなります。何とか川越クラブ26年目の6号を発行できたことを喜んでいきます。

私の年齢になると、この時期、「喪中につき年末年始の挨拶を失礼します。」というハガキが年々増えるようになり残念です。私も生家の兄嫁が89歳で12月初めに亡くなりました。

そんな中でも、YMCAには多くの若い人たちが集い、お互いに研鑽していることを知り、頼もしく思います。埼玉 YMCA フェスティバルも多くの人の参加を得て開催されました。

埼玉県内の3つのワイズメンズクラブは、毎月1日に午前7:00からオンラインで早天祈祷会を行っています。この12月1日は私が当番で、YMCAの“C”について話をさせていただきました。国際議員・アジア太平洋地域会長 利根川恵子さんの報告と内容が類似していて、我が意を得たりというところです。

どうぞ良い年末と新年の日々をお過ごしください。少し早いですが、A HAPPY NEW YEAR11 (K/Y)